



心と心、絆で結ぶ――

こし が や

民生委員・児童委員だより



第12号

令和3年12月1日発行



こし が や

編集発行／越谷市民生委員・児童委員協議会 〒343-8501 越谷市越ヶ谷 4-2-1 越谷市役所福祉総務課内
TEL 048-963-9320〔直通〕FAX 048-963-9174

越谷市民生委員・児童委員委嘱状交付式

民生委員・児童委員が全国一斉に改選され、
2019年12月20日、委嘱状交付式が行われました。



サンシティ越谷市民ホールに於いて、委嘱状交付式

民生委員・児童委員信条

- 一、わたくしたちは、隣人愛をもって、社会福祉の増進に努めます。
- 一、わたくしたちは、常に地域社会の実情を把握することに努めます。
- 一、わたくしたちは、誠意をもって、あらゆる生活上の相談に応じ、自立の援助に努めます。
- 一、わたくしたちは、すべての人々と協力し、明朗で健全な地域社会づくりに努めます。
- 一、わたくしたちは、常に公正を旨とし、人格と識見の向上に努めます。



越谷市民生委員・児童委員協議会
会長 齊藤 峰雄

師走の候、皆さまにおかれましてはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。また、日頃から越谷市民生委員・児童委員協議会の活動に特段の支援ご協力を賜りまして、心から感謝申し上げます。本年の委員活動につきましても、新型コロナウイルス感

染防止のため、委員相互の情報共有の場として毎月開催している13地区の定例会は、中止を余儀なくされることもございました。そのような中、埼玉県や越谷市の指導のもと、戸別訪問を控え電話や手紙での安否確認を行うなど、感染防止に努めながら見守り活動を行ってまいりました。各地区の様々なイベントや事業の開催も中止になり、地域の皆様との情報交換も思うようできず、何かとご不便やご迷惑をおかけしたことをお詫び

申し上げます。今後は、新型コロナウイルスの感染が一日も早く収束することを願うとともに、地域の皆様が安全で安心できる環境づくりに当協議会も、一層積極的に取り組んでまいります。日常生活でお困りのことがありましたら、お近くの委員に遠慮なく相談していただければと考えておりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。結びに、新型コロナウイルスの感染防止に努めていただきますとともに、時節柄健康には十分ご留意され、素晴らしい新年をお迎えいただきませう、ご祈念申し上げます。

令和元年より新会長へ
コロナ禍の民生委員・児童委員活動について

身近な健康・コミュニケーションづくり

今、日本は少子高齢化がすごいスピードで進んでいます。令和2年の高齢化率は28.7%、越谷市は25.1%。更に世界一のスピードで進み、2025年には30%になるといわれています。その中であって、地域の人たちとコミュニケーションを図りながら、健康づくりの人たちの一部を紹介します。



グラウンドゴルフ



絵手紙教室



ラジオ体操



太極拳



『どんじゃらほい』の花壇の手入れ

児童委員の活動紹介

桜井

桜井地区では「地域福祉推進講演会」を平成24年度より行っています。実行委員会を立ち上げ、毎年3月第2土曜日に、桜井地区センター多目的ホールで開催しています。前半は認知症をテーマに地域のお医者様、大学の先生、現場をよく知る看護師さんなどに講演をしていただき、後半はアトラクションとして、市内で活躍されている皆さんに、民踊や太鼓など様々なお楽しみを披露していただいています。毎回会場は満席で大変賑わいました。しかし、第9回からはコロナ禍のため中止となっています。



新方

自然いっぱい新方地区

新方地区は真中を新方川が流れ、まだ多くの田園が広がり、豊作を祈願し埼玉県無形民俗文化財指定の虫追い（前回紹介）行事も続いて、その田園地帯にホタルがかつてのように飛ぶ活動も継続中です。また、コミ協が中心となり、さつまいもや蕎麦を育て、高齢者、成人、子どもの世代交流を図っています。収穫した蕎麦は、公民館でそばを打ち、食して好評です。さつまいもはフェスタや文化祭等で参加者に振舞われます。種まき、草取り、収穫を経て、食についての学習体験も大きな収穫です。

一方、新方地区は越谷市の中でも高齢者率が高く4割に迫り、懸念されるところでもあります。



増林

活力のあるまち増林地区

増林地区では月1回定例会を行っています。毎年盛んに行っていた地区のイベントはコロナ禍で中止になっていますが、サロン活動や子どもたちのイベントはコロナ3原則を守りながら最小限で開催しています。また見守りや高齢者の相談等は委員の皆様が工夫しながら活動しています。

今回は田んぼアートを紹介します。今年は「バスケットボールをテーマとした越谷アルファーズとのコラボレーション」と題しています。場所は、東埼玉資源環境組合の西側に広がる、田んぼに地区の農家や関係者でアートを描いたものです。毎年、観光協会の主催で様々なアートを描き、地区や市民の皆様が大変喜ばれております。（撮影は東埼玉資源環境組合の展望台から）



大相模

地域包括支援センター大相模の紹介

令和3年1月4日、大相模地区センター内に越谷市で12カ所目となる地域包括支援センター大相模が開設されました。当センターは大相模地区の高齢者等の総合相談窓口として機能しております。

介護が必要になった場合には介護保険の代行申請・調整を行い、高齢者等が住み慣れた地域で安心して暮らすことができるように支援していくことや、地域住民の皆様には介護予防の啓発活動、認知症サポーター養成などの出前講座を定期的に開催して、健康増進や認知症の理解を深めていただいております。

川柳

川柳地区民生委員・児童委員協議会の活動

当地区の民生・児童委員は男性4名、女性9名で活動しています。コロナ禍で、担当する方々との対面が困難な状況ですが、支援ネット会議のZoom開催等、工夫しています。もう一つ当地区で重要なことは、築後50年の老朽化した川柳公民館の大型化の推進です。耐震性が劣り避難所に指定されず、調理室、和室1室、会議室1室のみの狭小建物です。地域の皆様の居場所づくりのための新公民館建設開始を民児協全員が切望しています。



蒲生

蒲生地区では毎年秋は小学校を借りて、ふれあい広場を開催しています。校庭ではグランドゴルフ・竹馬、体育館では割り箸工作・木工遊び・折り紙など、教えていただく地域の方との交流や親子とのふれあいを楽しみ、お昼はすいとんを全員で食べます。春は、ふれあいハイキングで芽吹いてきた草花を楽しみながら約10kmを歩き、友人家族が談笑しながら食べる、昼食のカレーライスは格別です。この活動を通し連帯感、思いやり等を育てています。



越谷

おいでください！ 南越谷地区フェスティバルへ

たち南越谷地区民生委員・児童委員協議会は毎年、谷地区フェスティバルに参加しています。「南越谷民生委員・児童委員だより」を独自に作成・配布の「脳トレ問題」での頭の体操や「ちょっとボール」などのゲームをしたりして、来場者と楽しくしてきました。また、地域包括支援センターに「相談コーナー」を設け、福祉相談もしています。皆様、谷フェスティバルで私たちと交流しましょう！



越谷市 民生委員・児童委員

荻島

荻島 私たちの町荻島は、歴史あるものと新しいものが混在している地域です。毎年五社稲荷神社行事や、夏に行われる灯籠祭や納涼祭などを各自治会で開催しています。新しいものは、元荒川沿いに「みずべのアトリエ」があり、誰もが立ち寄ることができ、ゆったりと過ごせる集会所です。

水辺のイベントやアート教室、持ち寄りちよい飲みナイト、お取り寄せスイーツパーティー、カヌーなどたくさんの企画を行っています。そして、地域の見守りや子育ての相談を兼ねて、高齢者・子育てサロンを運営、住民にやさしい町になっています。



大袋

大袋 8月1日現在、人口5万1,339人。昨年、大袋地区内に地域包括支援センターせんげん台出張所が増設されました。民生委員は60名7班に分かれて活動しています。

地域福祉事業として、県立大の大学祭や地区センター文化祭・梅林まつり等のイベントに参加し、地域交流の場を広げております。

また、毎月第1月曜日には北部市民会館で子育てサロンを開催しておりますが、現在は、コロナ禍により休んでいます。再開時、かわいいお子さんたちに会えるのを楽しみにしております。



大袋地区マスコット
キャラクター「ウメブクロ」



大袋地区マスコット
キャラクター「ウメブクロ」

大沢

大沢 大沢地区センター・公民館（昭和48年4月開所）は、令和3年8月31日をもって閉所になり、旧保健センター（昭和63年6月開所）跡に令和3年9月1日に開所になりました。証明発行等の行政サービスおよび電話等は今までと変更ありません。

なお、地域包括センター大沢が新しく館内に設置されることとなりました。また、新しく「子ども食堂 沢っ子」がオープンしました。毎月1回の開催ですが、ぜひ一度いらしてください。詳細については当センター・当館にお問い合わせください。



北越谷

北越谷 北越谷地区は、東武線北越谷駅を中心に元荒川沿いにある地区です。春には元荒川の桜並木が名所になっています。今はコロナ禍で活動しづらいときですが、児童の見守り、月一度の会食は2つのグループに分け、おやつ配布を公民館で行っています。介護予防の体操教室も、一丁目・二丁目東・二丁目の3地区の会所で週一度開催しています。

会食と同じように2つグループに分け、①消毒②体温③血圧を測り、健康とともに生きがいのある場になると願いながら、皆さんと一緒に元気に体操をしています。一日も早くコロナが収束して元の生活に戻ることを！



出羽

花火でコロナを 吹き飛ばせ

出羽公園では毎年夏に盛大に納涼祭を催していますが、今年はよさこい踊りや夜店等々催し物が省かれ、せめて花火でコロナを吹き飛ばせとばかり、花火が打ち合上げられ、夜空を飾りました。

そのような中で、「地域包括支援ネットワーク会議」が7月20日開催されました。急速な高齢化に伴う課題やニーズについて学びました。そして「つながりは介護予防の第一歩」という言葉に共感しました。地域の特徴として国道4号線が南北を縦貫し、市街地と田園地区を分けています。商業施設の遠い地域には移動スーパーが出張して高齢者などの助けになっています。

越ヶ谷

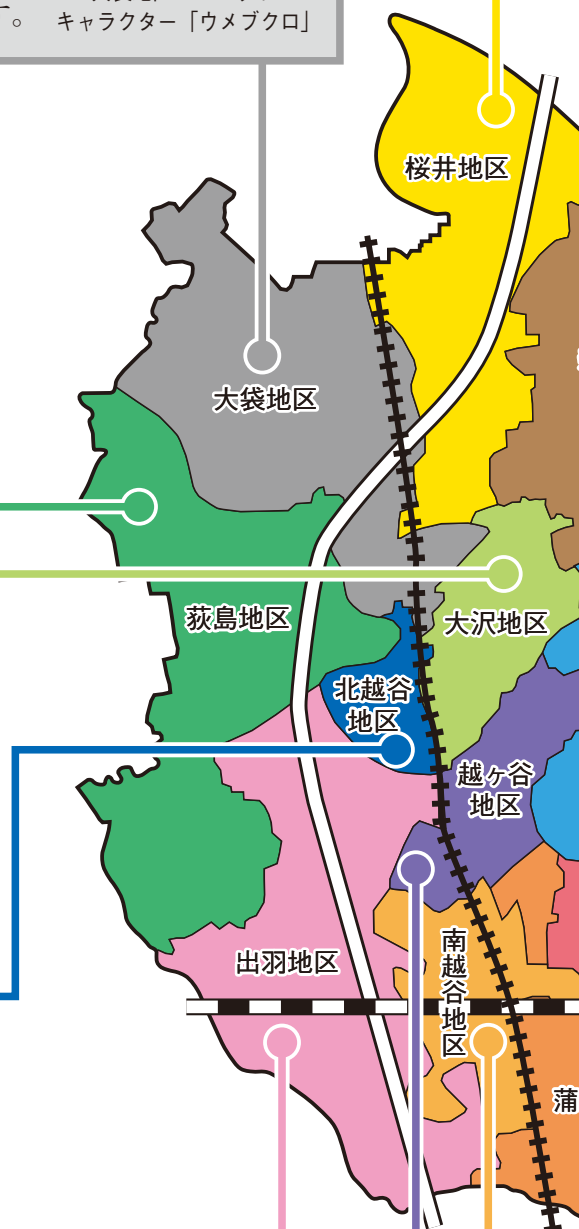
朝のラジオ体操で 心とからだの健康づくり

越ヶ谷地区では、6人の世話役さんが運営するボランティア団体が自主開催するラジオ体操が、市役所横の中央市民会館の広場で、毎朝開催されています。

この体操は、ご自分の都合にあわせて、お一人でも自由に参加できるので、毎朝100人前後の皆さんが、軽いストレッチと放送に合わせたラジオ体操を楽しんでいます。皆さんも朝のさわやかな空気の下で、体操のひとつときを楽しんでみませんか。



【開催内容】
年間365日／午前6時20分～40分
自由参加で自由解散



コロナ禍で子どもを支える「子育てフードパントリー」

「食べ盛りの子どもがいるので、助かります」……子育て中の生活困窮家庭に食品を無料で配布する子育て応援フードパントリーの会場がよく耳にする声です。今、越谷市内では、3つの団体が子育て応援フードパントリーの活動を行っています。合計約330世帯に食品を配布しています。

子どもの貧困対策として有効な活動

子ども食堂になかなか対象の子どもが来てくれない、という課題から始まった子育て応援フードパントリーですが、食品の無料配布は対象の家庭のニーズが高く、コロナ禍で増える生活困窮家庭と顔の見える関係でつながることができています。

子育て応援フードパントリーは、なかなかつながることができなかった生活困窮家庭、特に子どもを対象に支援ができる有効な活動となっています。

地域で持続可能な活動に

フードパントリーで配布する食品は多くの場合、食品会社の余剰食品や印字ミスなどで商品にならないもったいない食品を活用しています。もったいない食品を必要な家庭に配布し有効活用することができるフードパントリーは、「食品ロス削減」に寄与し、SDGsの目標達成に貢献しています。

SDGs・フードロス対策と両立

このように子どもの貧困にも食品ロス対策にも有効なフードパントリー活動が、世の中に正しく理解および広く認知され、企業・行政・個人の方の支援を得ながら持続可能な活動として地域に根付くことを願っています。



フードパントリーお問合せ先

- 越谷子育て応援フードパントリー「せんげん台」
sengendaikodomosyokudou@gmail.com
☎080-4477-4825（せんげん台こども食堂）
- 越谷子育て応援フードパントリー「ぼらむの家」
kodomoshyokudou@gmail.com
☎080-6785-4551（代表：青山）
- 越谷子育て支援フードパントリー「越谷市場」
koshigayaichiba.foodpantry@gmail.com
☎090-9688-8666（代表：武藤）



フードパントリーとは……

食品支援が必要な人に無料で食品を配布する活動



利用者の方々と顔の見える関係でつながることが目的

シトラスリボンの輪

蒲生地区登戸自治会女性部メンバー12名は、コロナ禍だからこそ活動として、愛媛県の有志から始まった、シトラスリボンプロジェクトに取り組んでいます。

シトラスリボンの3つの輪は「地域」「家庭」「職場（学校）」を表し、「ただいま」「おかえり」と

言いあえるやさしい町づくりを通して、新型コロナウイルスによる誹謗中傷をなくそう、さらに差別や偏見のない未来を願おうと、メンバー全員でリボンを作り身に着けています。

思いを広げる活動を通して賛同していただいた小学校・保育所・商店などにリボンを配布して輪を広げています。



瓦樋管トンネルがある越谷市

越谷市には明治から大正にかけて古利根川の増林村寿橋付近に煉瓦工場が存在していた。かつて増林地区は有数の煉瓦生産地帯であったと聞く。そこで、煉瓦工場の歴史を研究している、蕎麦処「久伊豆」の店主、笹井氏を訪ねた。明治7年、32年と越ヶ谷町は大火に見舞われ、小泉家のみ焼失を免れた。それは塀や壁に房州石が使われて防火の役割をしていたからと知る。そこで明治32年上田煉瓦製造工場が古利根川堰の粘土で煉瓦を焼き、その後6社程が創立した。その内、東武煉瓦株式会社は104名の従業員がいたという。

品質も洪沢栄一が設立した日本煉瓦製造株式会社のような良質の焼瓦ではなく、規格も不揃いであり、主に、家の塀や壁に使われていた。その後煉瓦産業は衰退へと進んでいった。

また、越谷市には国内に現存する日本最古の煉瓦づくりの樋管トンネルが越谷市西方の谷古田取水口公園に存在する。これは治水と現草加市に安定した米づくりを行うための農業用取水口の公共事業である。

そこに建つ越谷市史跡板には、谷古田領元込（やこたりようもといり）は重要な土木構造物にあげられ、明治24年4月18日完成と紹介されています。



越谷製煉瓦（笹井氏所蔵）



樋管トンネル

編集後記

一昨年より新型コロナウイルスが猛威を振り生活基盤を揺るがす状況です。民生委員活動でも対面行動ができず非常に不自由な行動の制限がされています。今年5月後半より高齢者より予防ワクチンの接種が始まりました。感染者の数は一向に減少の兆しも見えませんが、この号が発行される頃にはワクチン接種が進み発症者の減少がみられると思います。今後、今まで以上に感染防止に努め、発症しない行動をお願いします。

越谷市民児協13地区から選出されたメンバー25名が製作しました。それぞれの記事を分担し、全員で話し合いまとめ、市民の皆さんに見ていただける紙面になるように心がけました。

